

移住者インタビュー

鹿児島に移住された2組の方にインタビュー！
移住のきっかけやまちの印象・魅力など様々な
お話をうかがいました。



1

interview

みやで ひろし
宮出 博史さん
(44歳)

伊仙町
地域おこし協力隊



Q 鹿児島県に移住した経緯(きっかけ)を教えてください。

もともと大阪でいくつもの飲食店経営をしていました。25歳で独立した当時は勢いもあり、“商売”という意味では順調過ぎるほど順調でした。

しかし、実際は疲れ果てる毎日…。そんな中、息抜きにフラッと出かけた旅先で入ったカフェで、私よりもずっと年上の男性が、自ら栽培した豆を使用した珈琲を提供し、自分のペースで豊かに生活している姿を見て、“こんな生き方もあるんだな〜”と、とても衝撃を受けました。

時を同じくして徳之島出身の知人から、土地購入の相談を受け、珈琲栽培を決意。マンションのベランダで珈琲の種をプランターに植え、育った苗を徳之島へ送り、土地へ植え替え育てるという忙しくも充実した毎日。

しかし、そんな生活に夢中になりすぎ、飲食店が低迷し、徳之島へ行きたくても行けない日々が続きました。

珈琲栽培が困難になった私に、「この島に腰を据えて珈琲作りをやってみないか？」と声を掛けてくれたのが伊仙町の“地域おこし協力隊”でした。

培ってきた技術と経験を活かし、この町の役に立つことが出来たらと、移住することを決意しました。

Q 移住にあたっての不安はありませんでしたか？

正直不安はありました。徳之島はお店が多い訳でもないし、島の生活に飽きてすぐに逃げ出してしまうのではないかと不安でした。しかし、“住めば都”という言葉があるように、飛び込んでみると意外と新しい発見が多く楽しくて、一週間もすれば島の生活にもすっかり慣れてしまいました。

Q 移り住んでの感想、まちの印象、魅力は？

私はこの島がめっちゃ好きです。島の人たちは、“変化球”なんか使わず真っ直ぐな人たちが多く、とてもやりやすい島。伊仙町は、特に闘牛文化が熱く、みんな誇りに思っています。子どもたちが大きな牛を散歩させている姿を見ると、“島の大切な文化”としてしっかり根付いていて素敵だな〜って思います。

Q 地元に溶け込むコツは？

伊仙町の毎月一回のクリーン作戦。この島では月に一度、みんな集まって町内の清掃作業を行うのです。地域のイベントに積極的に参加し、町の人たちと交流を深める努力をすることが地元に溶け込む最大の秘訣であり、何より大切。あとは、笑顔で挨拶できればOK。

Q お気に入りの場所や風景はありますか？

伊仙町の犬田布岬から見る夕日と喜念浜から見る月の出が大好きです。この島は月の出が特に神秘的。ある意味「サンセット」はどこにでもあられるけれど、月の出を見ることが出来るのって、島全体が海に囲まれているからこその特権です。ぜひ見に来てください。

Q 現在のお仕事とこれからの目標(夢)を教えてください。

伊仙町の地域おこし協力隊になって、昨年一昨年と1万本ほど珈琲の苗を作りました。現在は苗作りを続けながら、豆だけではなく、お花や果肉、果汁・葉っぱに至るまで副産物の有効活用が出来る技術を身につけようとチャレンジしています。

珈琲に限らずマンゴーやグアバといった果物も同じで、実だけではなく、それ以外の部分を無駄にすることなく商品にして、島の特産品に出来るよう実験を行なっています。

今後の夢は、生産者の方々に寄り添うことの出来る農家になることでしょうか。一番しんどい思いをして珈琲のチェリーを収穫した農家さんは250円しかもらえないのに、不思議と末端のお店に出る時は1キロ3万円に化けている。もう一度この流れを見つめなおして、生産者に寄り添える人になれば…と思い研究しています。

Q 移住を考えている人へメッセージをお願いします。

徳之島は、観光では知り得ない魅力が沢山あります。長期滞在していただければ分かると思いますが、“何をしたい”というビジョンがはっきりしていれば無限の可能性をもった島だと私は思っています。この島でなら初のバリスタにだってなれるし、日本で初めて！ってことがいくらでもやれる。『無限の可能性を持った島』。一緒に徳之島で楽しく暮らしてみませんか？